

## (11) 沖縄



沖縄地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 観光は増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる。

### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 5 月）	今回（平成 17 年 8 月）	
景況判断	弱いながらも回復の動きがみられる	緩やかに回復している	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動きがみられる	
雇用	依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きがみられる	

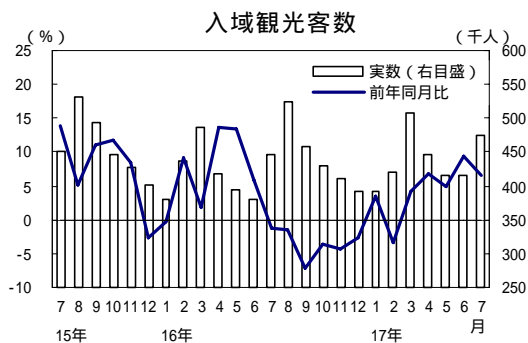
### 1. 観光及び企業動向

#### (1) 観光は増加している。

入域観光客数は、4月は、米州開発銀行（IDB）年次総会の沖縄開催や、修学旅行生の増加などから前年を上回った。5月は、ゴールデンウィークの日並びの良さや、台湾からの定期クルーズ船の運航が好調だったことから前年を上回った。6月は、伊丹、名古屋路線の提供座席数の増加や、航空各社が割引運賃の設定期間を昨年より延長したことなどから前年を上回った。7月は、使用機材の大型化による提供座席数の増加、羽田 - 那覇間の深夜定期便の運航などから前年を上回った。

なお、4、5、6、7月は過去最高を記録し、引き続き高い水準で推移している。

4～6月期における主要ホテルの客室稼働率については、修学旅行生の増加等を背景に、リゾートホテル、那覇市内のホテルともに前年を上回った。



#### 入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

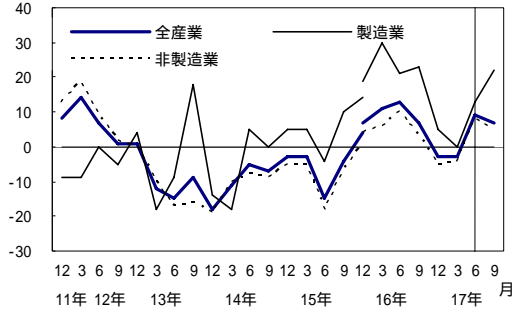
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月
入域観光客数	1,427	1,230	1,320	1,278
(前年比)	3.3	3.5	1.4	6.9
ホテル稼働率(前年差)	6.4	7.5	3.4	2.0

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光リゾート局調べ。

2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

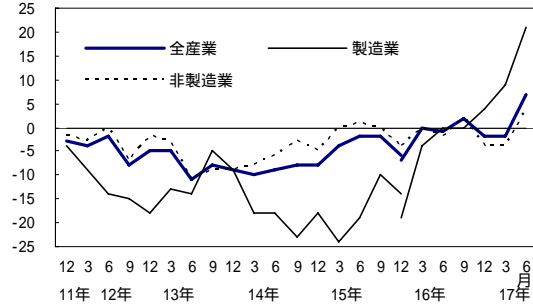
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



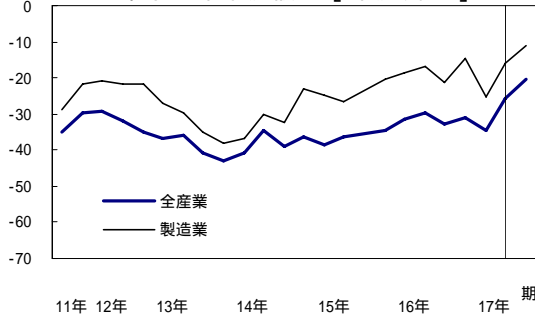
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年9月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(% ) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。  
九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

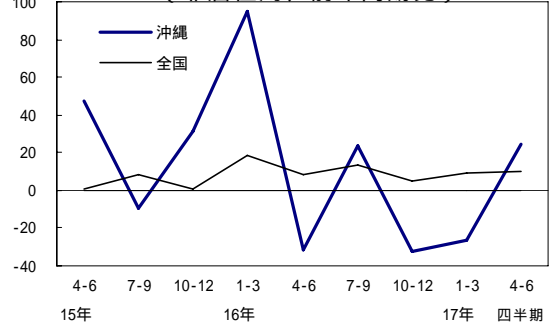
「少しずつではあるが、問い合わせ件数、成約件数が増えている(不動産業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「原油高騰がまだまだ続き、値上げ依頼が今月もありコスト増で大変厳しい状況である。ただ売上、物量も例年並みであり、業務の効率化を図り自社で利益を絞りだす努力をしている(輸送業)」など、「変わらない」とする回答もみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	17.6( 4.4)	26.2( 4.0)
製造業	9.7( 0.5)	28.2( 6.8)
非製造業	18.5( 4.8)	31.8( 5.8)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。石油・電力を除く。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

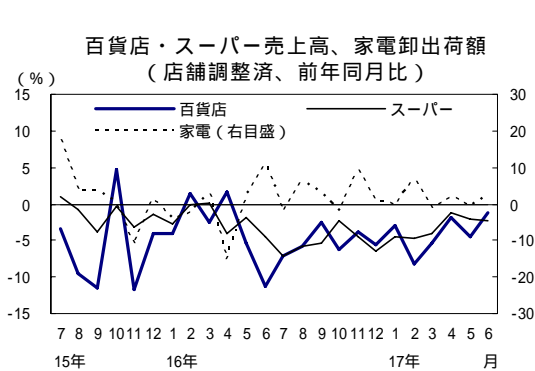
百貨店は、4月は衣料品、食料品が好調だったものの、身の回り品、家庭用品が振るわず前年を下回った。5月は、衣料品を中心に全般的に前年を下回り、マイナス幅も拡大した。6月は、物産展等の催事の好調により食料品が増加したものの、長梅雨の影響による客足減少等から身の回り品、雑貨が振るわず、前年を下回った。

スーパーは、クールビズ効果によるかりゆしウェアの売上増加により紳士服が好調だったが、競合店の影響等により、全体としては前年を下回った。

家電は、プラズマ、液晶といった薄型テレビが引き続き好調なことと、洗濯機、冷蔵庫、エアコンといった白物家電の増加から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「観光客の増加はあるが、同業者の増加、価格競争、観光客のリピーター率のアップで、売上にすぐには結びつかない(その他専門店[楽器])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



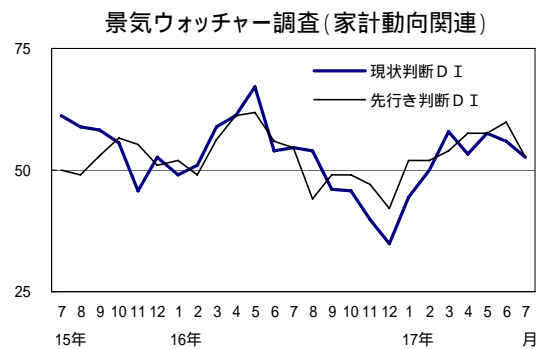
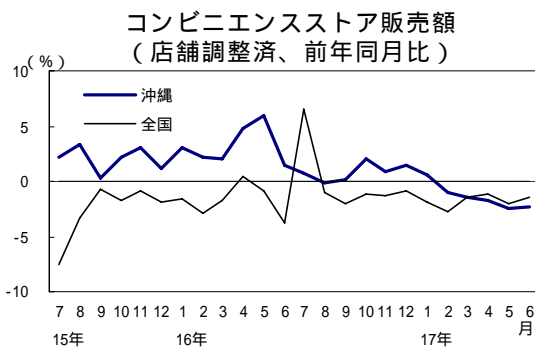
(前年同期比、%)

	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月
百貨店	5.2	5.2	5.5	2.5
スーパー	6.1	4.6	4.4	1.9
家電卸出荷額	2.0	2.6	0.2	1.2
コンビニ	0.2	1.4	0.6	2.2
景気ウォッチャー	51.5	40.2	50.8	55.7

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

給与、持家が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を上回っている。

